

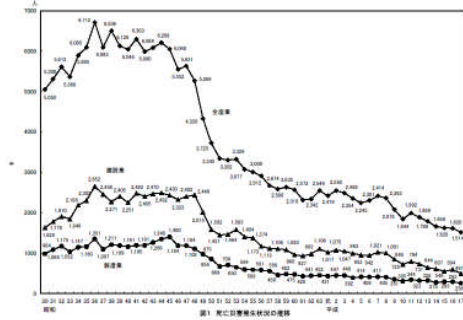
ヒューマンエラー防止研究の動向

宮城学院女子大学
准教授 大橋智樹
<ohashi@mgu.ac.jp>

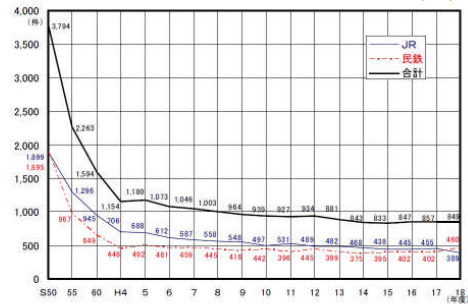
あいつが悪い→明日は我が身

- 『責任追及型』のヒューマンエラー対策
 - エラーを起こした本人の責任を追及し、配置転換などで対策を終了する
 - エラーの発生を個人のものに帰属するため、有効な対策にはならずエラーが繰り返される
- 『原因追究型』のヒューマンエラー対策
 - 個人の責任を追及せず、誰もがその立場になりうるという思想に立ち、背後要因を追及していく
 - エラーの発生を一般化し、水平展開することで将来における同種のエラー発生を防ぐことができる
- ヒューマンエラー対策は原因追究型にシフト
 - 対象は個人→組織に
 - 「組織事故」(Reason, 1997)など
- 成果は各分野で確実に現れている

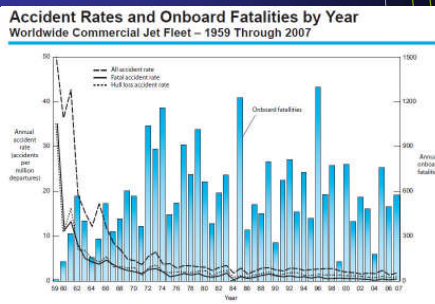
労災死亡事故発生件数の推移(国内)



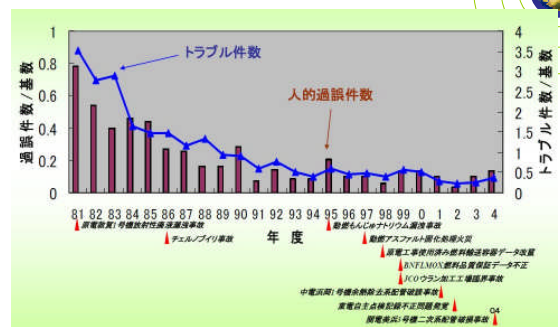
鉄道事故発生件数の推移(国内)



航空機事故件数の推移(全世界)



原子力産業におけるトラブルの推移



横ばいからの脱却法1

■ 学習曲線

- 現在の「原因追求型」方針を継続。より精緻化することでエラーの発生を低減させる

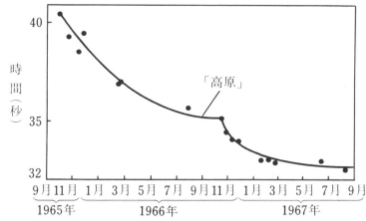


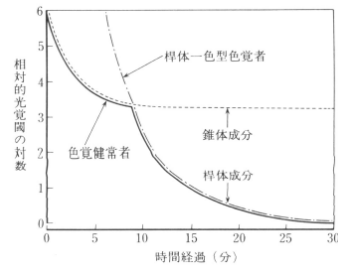
図 45-3 人の運動学習（水泳）における学習曲線
(Stagner & Solley, 1970)⁸⁾

7

横ばいからの脱却法2

■ 暗順応曲線

- 現在の「原因追求型」から、その特性を活かしたパラダイムシフトを



8

BTC報告へのコメント

産業心理学・人間工学の視点から

訓練効果を高める・伝える

- 地震時プラント診断訓練のさらなる拡張を
 - “新潟県中越沖地震での柏崎刈羽NPPを教訓に”という理念はわかりやすい
 - 「地震」だけに特化するのはやや対処療法的か？
 - 地震以外の想定外事象を“想定内事象”に変え、それらに対応すべく訓練を深化させる必要性を感じる
- 訓練の必要性を支える研究の充実を
 - 訓練の必要性を示す基礎的知見が指差呼称(芳賀, 2000)だけでは心もとない
 - 訓練自体の開発・評価だけでなく、BTC独自の訓練の必要性に関する説得力を高めるツールとして(基礎)研究を充実を感じる
 - 大学関係者の研究への参画は、原子力事業への理解を促進する一助にもなる。コストパフォーマンスは高いはず

10